

2020年5月13日 10:44:23 付 韓国農林畜産食品部プレスリリース

## 野生イノシシ発生状況と傾向分析

<https://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QE8JTJGYmJzJTJGbfWFmcmElMkY2OCUyRjMyMzc1NSUyRmFydGNsVmllldy5kbyUzRmJic0NsU2VxJTN EJTI2cmdzRW5kZGVtdHllM0QlMjZiYnNPcGVuV3JkU2VxJTNEJTI2cmdzQmduZGV TdHllM0QlMjZwYXNzd29yZCUzRCUyNnNyY2hDb2x1bW4lM0QlMjZyb3clM0QxMC UyNmlzVmllld01pbmUlM0RmYWxzZSUyNnBhZ2UlM0QxJTI2c3JjaFdyZCUzRCUyNg %3D%3D>

□環境部(長官ジョミョンレ)は5月7日~12日の6日間で、京畿道(キョンギド)漣川郡(ヨンチョングン)抱川市(ポチョンシ)と江原道(カンウォンド)華川郡(ファチョングン)、高城郡(コソングン)で野生イノシシのASFが8件発生し、現在までに全国で合計612件\*となったことを明らかにした。

\* 坡州(パジュ)97件、漣川(ヨンチョン)241件、鉄原(チョルウォン)29件、華川(ファチョン)235件、楊口(ヤング)3件、高城(コソン)4件、抱川(ポチョン)3件

○(5月7日~12日、環境部所属国立環境科学院で検査したイノシシ検体は合計171件で、この中死体検体が71件、捕獲個体検体が100件だった。

○陽性となった8件中7件は死体検体、残りの1件は高城郡(コソングン)県内面(ヒョソネミョン)で捕獲された捕獲個体検体であった。

□陽性となった死体および捕獲個体は全て2次フェンスまたは、広域フェンス内で発見され、捕獲個体1件は捕獲檻点検を実施した軍の将校が、残りの死体7件は環境部捜索チームおよび営農者が発見した。

○野生イノシシASF標準行動指針に基づき、検体採取後、現場消毒と共に死体を埋却処理した。

□環境部はASF陽性となったことを関係機関に通知し、発見地点と発見者の消毒、入山統制、周辺道路と移動車両に対する防疫の徹底など対応強化措置を要請した。

□一方、環境部は、2020年4月以降、死体捜索を活発に実施しながら、ASFの発生件数が減少傾向を見せていることを明らかにした。

○環境部は、その理由として、季節が変わり草木が育って死体捜索\*が難しくなったこととASF発生地域内での感染・死亡および捕獲によりイノシシ個体数が減少したことを挙げている。

\* 発見件数 : 1月174件(5.6件/日) → 2月240件(8.3件/日) → 3月326件(10.5件/日)

→ 4月 274件(9.1件/日) → 5月(～12日) 76件(6.3件/日)

□ただし、環境部は搜索されていない山岳地帯などが残っており、完全に減少傾向であると結論付けるには時期尚早と判断し、

○以後も積極的な死体搜索と捕獲檻/罠などを活用した個体数低減のための方案を持続推進する計画である。

○また、対策の成果と限界に対する分析を基に、5月中にも‘野生イノシシASF総合対策’を樹立すると明らかにした。

以上